

令和7年度
小石川淑徳学園中学校
第1回一般入試
試験問題

算 数

(50分・100点)

2月1日(土) 午前の部

【注意事項】

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
2. 問題は①～⑤まであります。ページの抜けや、印刷がかすれて見えにくいところがある場合は、手をあげて申し出てください。
3. 問題冊子・解答用紙に受験番号・氏名を必ず記入してください。
4. 解答は、解答用紙の指定された場所に記入してください。
5. 試験終了の合図まで静かに着席してください。
6. すべて、監督の先生の指示にしたがってください。
7. 問題冊子・解答用紙ともに回収します。

受験番号		氏名	
------	--	----	--

1 次の計算をしなさい。

(1) $25 + 10 \div 2$

(2) $37 - (3 + 4) \times 4$

(3) $\frac{2}{3} - \frac{7}{18}$

(4) $\frac{3}{8} \times \frac{4}{21}$

(5) $2.23 + 1.8$

(6) $\frac{4}{5} \div 0.6 \times \frac{5}{7}$

2 次の問いに答えなさい。

(1) 時速12 km で2時間自転車で走るとき、何 km 進むか答えなさい。

(2) 36と48の最大公約数を答えなさい。

(3) 387分は何時間何分か答えなさい。

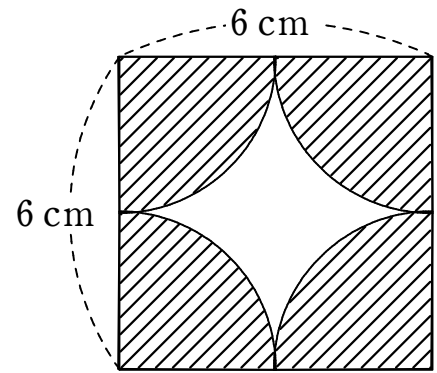
(4) 450円の8割は何円か答えなさい。

(5) おはじきを姉妹で5:3になるように分ける。姉が35枚のとき、妹の枚数を答えなさい。

(6) リンゴ、なし、かき、みかんの中から2種類選ぶ方法は何通りあるか答えなさい。

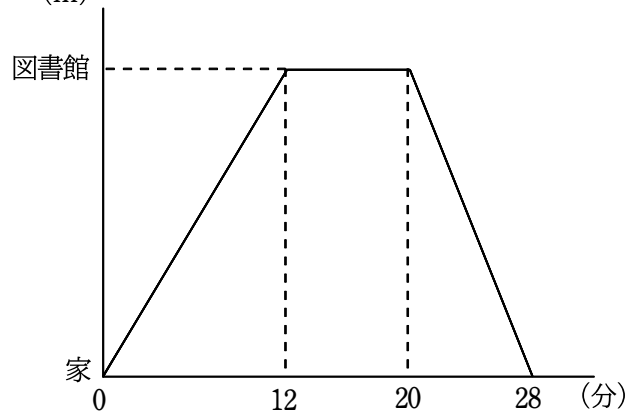
3 次の図について、次の問いに答えなさい。ただし、円周率を3.14とする。

(1) 斜線部分の面積を求めなさい。



(2) 斜線部分の周りの長さを求めなさい。

4 淑子さんは、借りていた本を返すために、家と図書館の間を往復しました。
右のグラフは、家から図書館までの道のりと時間の関係をグラフにしたものです。
図書館に向かっていくときの速さは毎分 70 m (m)
として、次の問いに答えなさい。



(1) 家から図書館までの道のりは何 m
ありますか。

(2) 淑子さんが図書館にいたのは何分間ですか。

(3) 家を出てから 23 分後に淑子さんは、家から何 m のところにいますか。

5 次の数の列は、ある規則をもって並んでいます。

3, 9, 15, 21, , 33, 39, ……

このとき、次の問いに答えなさい。

(1) に入る数を答えなさい。

(2) 左から30番目の数を答えなさい。

(3) 2025は左から何番目か答えなさい。

1	(1)	(2)	(3)
	(4)	(5)	(6)

2	(1)	(2)	(3)
	km		時間 分
	(4)	(5)	(6)
	円	枚	通り

3 ※答えのみでもよい

(1) (式または考え方)
答 cm^2
(2) (式または考え方)
答 cm

4 ※答えのみでもよい

(1) (式または考え方)
答 m
(2) (式または考え方)
答 分間
(3) (式または考え方)
答 m

5 ※答えのみでもよい

(1) (式または考え方)
答
(2) (式または考え方)
答
(3) (式または考え方)
答 番目

受験番号		氏名		評点	
------	--	----	--	----	--

1	(1) 30	(2) 9	(3) $\frac{5}{18}$
	(4) $\frac{1}{14}$	(5) 4.03	(6) $\frac{20}{21}$

2	(1) 24 km	(2) 12	(3) 6 時間 27 分
	(4) 360 円	(5) 21 枚	(6) 6 通り

3	※答えのみでもよい		
	(1) (式または考え方)		
	答 28.26 cm ²		
	(2) (式または考え方)		
	答 42.84 cm		

4	※答えのみでもよい		
	(1) (式または考え方)		
	答 840 m		
	(2) (式または考え方)		
	答 8 分間		
	(3) (式または考え方)		
	答 525 m		

5	※答えのみでもよい		
	(1) (式または考え方)		
	答 27		
	(2) (式または考え方)		
	答 177		
	(3) (式または考え方)		
	答 338 番目		

受験 番号		氏 名		評 点	
----------	--	--------	--	--------	--

令和7年度
小石川淑徳学園中学校
第1回一般入試
試験問題

国語

(50分・100点)

2月1日(土) 午前の部

【注意事項】

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
2. 問題は【1】～【4】まであります。ページの抜けや、印刷がかすれて見えにくいところがある場合は、手をあげて申し出てください。
3. 問題冊子・解答用紙に受験番号・氏名を必ず記入してください。
4. 解答は、解答用紙の指定された場所に記入してください。
5. 試験終了の合図まで静かに着席しててください。
6. すべて、監督の先生の指示にしたがってください。
7. 問題冊子・解答用紙ともに回収します。

受験番号		氏名	
------	--	----	--

【1】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

失敗に対して、どんな^aシセイで臨むかは、ひとそれぞれです。

なかには「A」と慎重になり過ぎて、自分からは何一つアクションを起こさないひともあるでしょう。そんなひとは、確かに失敗を避けられる可能性を高めることはできるかもしれませんが、その代わり、本当はやりたいと思っていることもできませんし、毎日、時間ばかりが虚しく過ぎて、新たな出会いも、^bタツセイ感も、自身の成長も、何も得ることはできません。

反対に「B」と大胆になりすぎて、Cしてしまうひともあるでしょう。そんなひとが、^cキケンもかえりみずに、^d無茶ばかりしていたら、まわりのひとたちも、^eマキ込まれ、^f迷惑をこうむることになります。そのひとはどんなに失敗しても反省することがないので、いくら失敗しても成長できません。そればかりか、失敗から得た知識や経験を活かさない^gので、失敗を重ねるうちに、失敗の^hスケールがだんだんと大きくなり、ⁱシノクさも増していき、やがては、命に関わるような取り返しのできない失敗を起こしてしまう可能性が高くなってしまふのです。

失敗は、怖がり過ぎてもダメ、怖がらなさ過ぎてもダメ。大切なのは、¹失敗と上手に付き合う方法を見つけることです。人は、生きているかぎり、必ずいくつかは失敗しますし、事故を起こすこともあるでしょう。

あり得ることは起こります。どうしても起きてしまう「失敗」との付き合い方が上手なひとは、新しいことに果敢にチャレンジして、大きく飛躍するチャンスをつかむことができます。たとえそのチャレンジで失敗したとしても、

数々の失敗と上手に付き合いながら積み重ねてきた体験的知識を生かして、どんな挫折も乗り越え、さらに成長して、次のチャンスにそなえることができます。

逆に失敗との付き合い方が^g下手なひとは、失敗するかもしれない^hリスクをひたすら避けるので、同時に成功するチャンスも逃してしまいます。また、失敗した経験からしか学べない体験的知識も身につけられないため、取り返しのつかない失敗が起こる可能性を低くもできず、実際に大きな失敗が起きてしまったときには、ⁱリカバーして回復する方法もわからず、大きなダメージを受けることになります。

では、²失敗と上手に付き合うためには、どうすればいいのでしょうか。予想できる失敗についての知識を蓄えて、常にその知識を^h念頭に置いて行動すれば、不必要な失敗を回避できる可能性は高まります。失敗が致命的なものになる前の段階で、その失敗の原因や特性を知れば、有効な対応策を考えて、的確な対応が取れるので、失敗が大きくなることを未然に防げます。ですから、失敗と上手に付き合う上で大切なのは、失敗の種類や特徴を整理し、失敗が起こる原因を分析し、失敗が持つ法則性を理解することです。

それらを誰もが理解できるように、論理的（科学的）な⁴視座からの⁵アプローチによって実行するのが「失敗学」です。まずは「失敗の種類」についての解説から始めましょう。世の中の失敗は二つのタイプに分かれると私は考えます。「許される失敗」と「許されない失敗」です。もっと簡単に言うなら「よい失敗」と「悪い失敗」です。

（あ） 「よい失敗」について説明します。「よい失敗」とは「個人が未知なるものに遭遇して起きた失敗」です。個人が無知であったり、あるいは、何かミスして起きるタイプの失敗です。この手の

失敗をしたひとは、なんらかの「ヒハン」や※6ペナルティを受けることになり
ます。その失敗で、ある程度、まわりのひとに迷惑をかけてしまったのであれ
ば、叱られるくらいは仕方ないかもしれません。（い）、あまり「せめ立
てたりするのは避けるべきです。

（う）、その「未知なるものとの遭遇による失敗」は、そのひとが成長
する過程において、必ず通過しなければならぬものだからです。

3 失敗なしに人間は成長しません。ひとは失敗して成長し、また小さな失敗
を体験して、その分、成長していくというくり返しのなかで、一つひとつの失
敗経験から体験的知識を得ることで、次の大きな失敗を起こさないために、
徐々に軌道修正していくからです。

（え）、その失敗経験を将来の成功へと転化することもあるからです。

（畑村洋太郎『やらかした時にどうするか』）

※1 スケール……物事の規模。大きさの程度。

※2 リスク……予測できないきけん。

※3 リカバリー……取り戻すこと。

※4 視座……ものを認識する立場。視点。

※5 アプローチ……学問・研究などの対象に接近すること。

※6 ペナルティ……罰則。

問一 ——線部 a～j の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

問二 （あ）～（え）に当てはまる言葉を、次のア～エからそれぞ
れ選び、記号で答えなさい。

ア さらには イ しかし ウ まずは エ なぜなら

問三 A・B に当てはまる文章として適切なもの
を次のア～エからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア 失敗なんて全然怖くない！
イ たまには失敗をしてもいいかな。
ウ どんな失敗も絶対にしたくない！
エ 大きな失敗だけはしたくない。

問四 C に当てはまる四字熟語として適切なものを次のア～エから
一つ選び、記号で答えなさい。

ア 一喜一憂
イ 猪突猛進
ウ 意気投合
エ 日進月歩

問五 ——線1 「失敗と上手に付き合う方法」を見つけたひとはどんなこと
ができますか。文章中から三十四字で探し、初めと終わりの五字を答え
なさい。

問六 — 線2 「失敗と上手に付き合うため」に大切なことを説明している部分を四十一字で探し、初めの五字を答えなさい。

問七 — 線3 「失敗なしに人間は成長しません」とあるが、これについて次の問いに答えなさい。

1 大きな失敗をしないために人間は成長していきながら何を得ていくといいでしょうか。解答らんに合うように文章中から十一字でぬき出しなさい。

2 失敗はなぜ人間を成長させるのか文章中の言葉を使って、四十字以上五十字以内で答えなさい。

【2】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

中学校二年生の藤念真子は親元を離れてイカル荘で生活をしていた。イカル荘は絵描きの夏鈴さんが管理している。そこで夏鈴さんの父親のジジさんや、夏鈴さんの従弟の反橋颯太や女子留学生のデフィンと出会い、様々な交流を重ねている。

外にでると、空気がひんやりしているのに気がついた。

「あんなに暑かったのに……」

真子は半そでのTシャツのそでからでている腕をさすった。夏は重い腰をあげて、去っていかうとしていた。

「おお、涼しいですね。秋、ですか。デフィン、はじめてですね。寒い、知りませんから、楽しみです」

「え、日本に來日したばかりの四月もまだ寒かったですよ？」

「おお、そうね。でも、慣れるのに夢中、わかりません」

「そういうものなんだ」

笑顔のデフィンを見る。

（デフィンの国はずっと夏、それも真夏しかないんだ。それ、わたしにはわからないな）と、真子はデフィンの「コキョウ」を思った。

「わたしだって、はじめての秋だよ。家じゃないし、パパもママも一緒にじゃない秋の一日」

「おお。そうね。一緒、楽しむ、いいね」

「でも、今日で最後」

真子の声が低くなる。

「イカル荘から帰っても、真子ちゃん、デフィンの友だち。また会えるね。イカル荘、ずっとある。消えないね」

デフィンの声が明るい。気分がすつと楽になった。

軽トラックの横にはジジさんがいた。荷台には、数本の三脚と、大きな真つ黒なカメラバッグがのっている。ジジさんに近づいていく颯太の横顔を見て、真子はビクツとした。颯太がきりつとした表情を浮かべていた。

(反橋、いつもと違う)

りりしいと思ってしまうことに気がつき、あわてて颯太から目をそらした。

「軽トラには、颯ちゃんと同じでいいのよね。わたしたちは後ろの車でしょ」

「おお。弁当と飲み物もな」と、ジジの声がした。

「2」さて、出発よ

真子とデフィンはあわてて車に乗りこんだ。

鳥を見る場所を観察地点というらしいが、車で一時間ほどかかると、夏鈴さんが言っていた。そこまでのドライブは、暑くもなく寒くもなく、**b**カイトキで、にぎやかだった。

「ちよつと、デフィン、静かにしてちょうだい。笑いすぎて運転に集中できないじゃない」と、夏鈴さんが笑いながら**c**文句を言った。

「そですか？ 静か、できるかな」と、自信なさげにデフィンが言う。

その横で、真子はお腹をかかえて笑っていた。

「ここよ。到着」

そこは、小高い丘への登り口にある駐車場だった。

すでに到着していた颯太たちの乗った軽トラックが駐車場に見えた。車の外で、颯太もジジさんもすでに**d**双眼鏡をカマえ、空をにらんでいた。

「ジジさん、颯ちゃん」

3 デフィンが呼びかけてもこちらを向かない。

「無理よ。二人とも聞こえてるけど、聞こえてないわよ」

「どういうこと、ですね？」と、デフィンがたずねた。

夏鈴さんが説明してくれた。

「聞こえていても、返事も反応もしないってこと。その間に、鳥が来ちゃったら悔しいからね。鳥に夢中な人って、そういう人たちのよ」

「そうなんだ……」

(絵を描いているときの夏鈴さんと同じだ)と、真子は笑いそうになった。

デフィンは首からさげた双眼鏡に目を当てた。真子も夏鈴さんから**e**カリている双眼鏡をリュックから取りだしてのぞいてみる。**f**ソウサには、もう慣れた。

「やっぱり、近くに見える」

小高い丘の上には、**g**カンソな造りのあずま屋があり、双眼鏡をのぞくと、手が届きそうなほど近くに見える。そのあずま屋に、すでに颯太の姿が見えていた。あずま屋までは、この登り口からそう遠くないようだ。

ジジさんも颯太の横にいる。双眼鏡をかまえる二人の姿がもの慣れている。

そして、二人とも、すぐに、あずま屋の中に消えてしまった。

「よく見える」

真子は双眼鏡を目に当てたまま、当たり前のことをつぶやいた。

「さて、大丈夫かな。じゃ、出発。あのあずま屋まで行くわよ」

荷物はジジさんと颯太が先に持っていったくれた。真子は首からぶらさげた双眼鏡を両手で押さえながら、歩きだした。

「真子ちゃん、知ってる鳥、ありますね？」

登り口からの階段で息を切らしているデフィンが声をかけてきた。

「えっと、イカル荘のイカル。はつきりくつきり見たでしょ。それと、スズメ、カラス、ハトぐらいかな」

「カラス、デフィン、大丈夫、わかるね」と、笑った。

夏鈴さんはすでにウオッチングモードだ。空をきよるきよる見まわしては、急に立ち止まる。そして双眼鏡を目に当てる。

（鳥より、夏鈴さんに気をつけてないと、夏鈴さんのリュックにぶつかっちゃう）

苦笑いしながらついていった。

あずま屋には二十人ほどの人が集まっていた。まわりの少し平坦な草地には、三脚が立っている。大きな望遠カメラをソナえつけている人たちもいる。双眼鏡よりもくつきりと見えるという鳥の観察用の望遠鏡もずらりと並んでいる。ざっと数えても五く六本。いろんな方向に向けられていた。

真子は胸がドキドキしてくる自分に気がついた。

（これが探鳥会っていうんだ）

集まっている人たちの、ちよつと緊張した雰囲気や、楽しそうな表情を見ながら真子はきよるきよるしていた。

「鳥好きの人、バードウォッチャー、いっぱいいますね」と、デフィンが言う。

「うん」

「鳥、かわいい、鳴き声きれい、追いかけてもいいも、ある」

「うん」

「でも、好きに理屈ない。ただ、好き。それ大事ね」

真子は、デフィンの言葉に納得した。

カメラや鳥の観察用の望遠鏡の間をぬってジジさんがやってきた。

「まだ、三十羽くらいらしい。これからだな」

ジジさんにうなずいている夏鈴さんは双眼鏡を目に当てて空を見ている。

「4 ジジさん、イカル、今日、見られますか？」と、真子はたずねた。

「え、イカル？」

ジジさんが、ちよつと驚いたように双眼鏡から目を離して真子を見た。そしてすぐに目をそらせると、口を開いた。

「イカルは、さつき鳴いてたな。群れを作っているところだからいると思う」

ジジさんはあずま屋の向こうの山の斜面に目をやった。

「おっと、鳴いた。聞こえたかい？あれがイカルの鳴き声だ」

タイミングよく鳴きだした鳥の声、それがイカルだと教えられた。

きれいな鳴き声だ。ガビチョウのとは全く違う。ガビチョウがトランペットのように高らかに響き渡る鳴き声なら、イカルの鳴き声は細く高く透き通る口笛のようだ。同じ「節」をくり返して鳴いている。以前夏鈴さんがうっとりする鳴き声だと言っていたことを思い出した。

イカルの鳴き声に気をとられていると、ジジさんがたずねてきた。

「真子ちゃん、今のイカルの鳴き声、なんて聞こえる？」

「えっと、ヒーヒーホーヒー、かな」と、自信なく答えた。

「ほお。鳥の鳴き言葉を言葉に置きかえて言えるなんて、なかなか、すごいぞ。

あんな、ツキヒーホシって聞こえないか？」

「え、ツキヒーホシ？」と、真子は首をかしげた。

「そう、ツキヒーホシ、つまり、月、日、星って聞こえる人、っていうか、聞く人もいるんだ。月も日も星も、三つとも光るだろ、だからイカルのことを、三つの光の鳥、三光鳥って呼ぶこともあるんだ」

「へえ」

再びさえずりはじめたイカルの声に真子は耳をすました。

（うーん。月・日・星と、聞こえなくもないかな）と、首をかしげながら思った。

ガビチョウのように強い鳴き声じゃないのに、林の中でイカルの鳴き声が響き渡っている。真子は鳴き声のするほうに目を走らせた。

(あ、鳴きやんだ)

残念だなど思ったとたん、十羽ほどが、斜面をかすめて飛んでいった。

「ほれ、あれがイカルの群れだ」と、双眼鏡を、目に当てながらジジさんが教えてくれた。

「え、もう向こうに行っちゃった」

「そうだな。なかなか姿をとらえるのは難しい鳥だからな。遠くでちらりと見ればいいほうなんだよ。運がよければ、さえずっている姿を双眼鏡で見られるけどな」

(わたし、イカルをはつきり見たよ) と、言いたかった。けれど、⁵ジジさんはイカルの話をしたくない様子で、¹足早に真子の前から立ち去っていった。

いつものジジさんと少し違うような気がした。

(考えすぎかな) と、真子は思った。

真子の隣に颯太がやってきた。

空に向けた双眼鏡から目を離すことなく、颯太が口を開いた。

「なあ、藤念、知ってるかなあ。イカル荘のイカルって、ジジとババとの思い出の鳥だってことをさ」

「思い出の鳥？」と、真子は聞き返した。

「そう、若いころにはじめて二人で探鳥会に参加して、ばっちり姿を見たんだってさ」

真子は少し驚いた。

「え、あの家にイカル荘って名前をつけたのって、その思い出のせいなの？」

「ババはそうだったらしい」

「え、ジジさんだってそうでしょ？」と、真子は颯太を見た。

颯太は双眼鏡から目を離して首をふった。

「それが違うんだ。ジジは、はじめて二人で探鳥会に行ったときに、イカルを見たことなんて、これっぽっちも覚えてなかったんだとき。ま、大昔のことだからな」と、颯太は手元で双眼鏡をいじりながら言った。

「え、忘れてたって、それ、どういうこと？」と、真子は颯太に聞きなおした。

「それって、ババさん、ものすごくきびしいと思うよ。ババさんはジジさんに文句言わなかったのかな？」と、真子は颯太につめ寄った。

「何にも言わなかったらしい。ババらしいっていえば、そうなんだけどさ。それで、ジジがそのことを思い出したのって、ババが亡くなったすぐあとだったんだってさ。ジジ、ものすごくへこんだらしい。ジジ、酔っぱらってさ、おれにそう言ったんだ」

真子は息をのんだ。

「はじめて探鳥会に行つて、はじめて見たイカルがきっかけで、ジジとババは付きあいだしたらしいしき。青春の思い出ってやつ？青春の象徴、それがイカルらしい」

真子はだまりこんだ。

「ババが死んじゃって、ジジは、いつの間にか、おれらの家で暮らすようになってたんだ」

真子はさらに深くだまりこんだ。

しんとした気持ちをかかえて、二人は並んでいた。

颯太が双眼鏡で空を見ながら口を開いた。

「なんかな……」

「うん……」

真子は答えた。何が「なんかな」で、その返事が「うん」なのか、わからないけれど、この場合そう返事をするのが一番いいと、真子は思ったのだ。

イカル荘という名前一つをとっても、パパさんの思いがあり、それを忘れていたジジさんの後悔がある。

(気がついてもらえなかったパパさんと、大切なパパさんを亡くしてから思いたしたジジさん。どちらも、切ないな)

真子はすれ違ってしまう心というものを思い、大きなため息をついた。

(にしがきようこ『イカル荘へようこそ』)

問一 ――線部 a j の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

問二 デフィンが暮らしていた国や彼女の人柄について、適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア アメリカで暮らしていて、皮肉を言いにごやかな人柄である。

イ ブラジルで暮らしていて、おせっかいな人柄である。

ウ カナダで暮らしていて、元氣よく明るい人柄である。

エ インドネシアで暮らしていて、優しく面白い人柄である。

問三 ――線1「でも、今日で最後」とありますが、このときの真子の気持ちについて、適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア イカル荘で過ごす日々も最後になり感極まり悲しく、今日の催し物はしつかりやらないといけないと思いつい出し真剣な気持ち。

イ 家ではない場所で慣れていないし、パパもママも一緒ではないことに不安で、家に帰りたいことを思い出し暗い気持ち。

ウ イカル荘で過ごしてきた日々はよいものだったがそれも最後になり残念で、家に帰ることを思い出し憂鬱な気持ち。

エ 初めての場所に出かける支度をしているが、楽しもうと言われ本当に一緒に楽しめるのか自信がなく困っている気持ち。

問四 ――線2「さて、出発よ」とありますが、真子たちは何をするために出かけるのでしょうか。次の文の() ()に当てはまる言葉を、文章中から三字でぬき出しなさい。

・ () () に参加するため。

問五 — 線3 「デフィンが呼びかけてもこちらを向かない」とありますが、その理由について、適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 集中して鳥を探している姿を見ているのに呼びかけてくる無神経な態度に腹を立てているため。

イ 急に飛んできて一瞬にして去ってしまう鳥も見逃さないように集中して見張っているため。

ウ 鳥を探すことに集中して夢中な人は呼びかけても返事も反応もしなくていい決まりがあるため。

エ 全ての鳥を見逃さないように呼びかけられたら大事な用事か判断して返答をするため。

問六 — 線4 「ジジさん、イカル、今日、見られますか？」とあります

が、真子が鳴き声を聞いたときに感じたAイカルの鳴き声に例えられているものと、Bイカルと比べている別の鳥の鳴き声に例えられているものを文章中からそれぞれ六字以内でぬき出しなさい。

問七 イカルの別の呼び名とその由来を文章中の言葉を使って、四十字以内で答えなさい。

問八 — 線5 「ジジさんはイカルの話をしたくない様子」とありますが、このような様子になる理由を文章中の言葉を使って、五十字以内で答えなさい。

問九 真子は颯太からジジさんとババさんの話を聞いて何を思いましたか。文章中から九字でぬき出しなさい。

【3】 次の1～5の□には、それぞれ漢字一字が入ります。□に入る語を後の語群から選び、四字熟語を完成させなさい。

- 1 自画自□
- 2 意味深□
- 3 □死回生
- 4 一□一退
- 5 適□適所

語群

- | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|
| ・進 | ・新 | ・長 | ・重 | ・得 | ・徳 |
| ・財 | ・材 | ・期 | ・起 | ・算 | ・賛 |

【4】 次の1～5の□には、漢字一字が入ります。当てはまる言葉を入れて、慣用句を完成させなさい。

(問題例) □を決める (正答) 腹

- 1 □につく ……職業や任務がその人にぴったりとあっていること。
- 2 □を売る ……むだ話で時間をつぶしてなまけること。
- 3 □をかむ ……物事に味わいやおもしろみを感じられないこと。
- 4 □がいい ……自分の利益^{りえき}だけを追求しようとする態度をとること。
- 5 □をかく ……予想をくつがえして相手を出しぬくこと。

【4】		【3】		【2】										【1】													
1		1		問九	問八			問七		問六	問五	問四	問三	問二	問一		問七		問六	問五	問四	問三	問二	問一			
									A						f	a	2		1				A	あ	f	a	
																								B	い		
															g	b									う	g	b
																				ㄱ				え			
															h	c										h	c
															え												
															i	d										i	d

⑩ ⑩ ③ ⑤ ④ ⑥ ③ ③ ③ ③ ⑩ ⑤ ③ ④ ③ ③ ④ ⑧ ⑩
 2×5 2×5 2×2 2×4 1×10

【4】		【3】		【2】										【1】																																
1	1	問九	問八			問七		問六	問五	問四	問三	問二	問一		問七			問六	問五	問四	問三	問二	問一																							
板	賛	す	思	く	バ	三	鳴	A	イ	探	ウ	エ	f	a	2			1	失	新	イ	A	あ	f	a																					
		れ	い	な	バ	つ	き	(透					操作	故郷	る	な	自	失				敗	し	い	ウ	ウ	深	刻	姿	勢																
		違	出	っ	さ	の	声	き																							通	る	こ	な	分	敗	い	こ	B	い	刻	勢				
		っ	の	た	ん	光	が	る																							る	も	と	敗	の	間	験	か	ら	種	類	う	g	b	達	成
		て	鳥	後	と	の	ツ	る																							簡	素	あ	る	起	違	か	ら	体	験	の	種	類	う	エ	へ
し	だ	に	イ	鳥	キ	る	素	快	る	こ	さ	ず	軌	道	的	経	験	の	種	類	う	え	ア	危	険																					
3	3	う	ら	い	ル	意	ー	B	ト	ラ	ン	ペ	ット	備	え	もんく	構	えて	ふ	し	じ	え	借	り	て	あ	し	ば	や																	
4	4	心	。	出	を	味	ホ	ラ	ン	ペ	ット	備	え	もんく	構	えて	ふ	し	じ	え	借	り	て	あ	し	ば	や	ね	ん	と	う															
5	5	後	こ	三	聞	こ	え	月	と	日	と	星	で	備	え	もんく	構	えて	ふ	し	じ	え	借	り	て	あ	し	ば	や	ね	ん	と	う													
裏	材	悔	し	を	忘	れ	て	い	る	原	因	の	亡	後	こ	三	聞	こ	え	月	と	日	と	星	で	備	え	もんく	構	えて	ふ	し	じ	え	借	り	て	あ	し	ば	や					
裏	材	悔	し	を	忘	れ	て	い	る	原	因	の	亡	後	こ	三	聞	こ	え	月	と	日	と	星	で	備	え	もんく	構	えて	ふ	し	じ	え	借	り	て	あ	し	ば	や					
裏	材	悔	し	を	忘	れ	て	い	る	原	因	の	亡	後	こ	三	聞	こ	え	月	と	日	と	星	で	備	え	もんく	構	えて	ふ	し	じ	え	借	り	て	あ	し	ば	や					
裏	材	悔	し	を	忘	れ	て	い	る	原	因	の	亡	後	こ	三	聞	こ	え	月	と	日	と	星	で	備	え	もんく	構	えて	ふ	し	じ	え	借	り	て	あ	し	ば	や					

模範解答

2/1 (土)

受験番号

氏名